

福島再生加速化交付金(福島定住等緊急支援)
/福島定住等緊急支援交付金

定住緊急支援事業計画の実績に関する評価

平成29年12月
福島県 本宮市

(様式1)

定住緊急支援事業計画に基づく事業等の評価一覧

平成29年12月時点

1) 事業の実施概要
Table with columns: No., 事業番号(注1), 事業名(注2), 地区名施設名, 基幹/効果促進, 事業実施主体, 全体事業費(注3), 全体事業期間(注4), 年度事業費(注5) (平成25年度, 平成26年度, 平成27年度, 平成28年度), 評価実施時期(注6), その他.

2) 事業計画に記載した地域の復興における支障の解決に係る目標(注7)
Table with columns: 指標, 従前値 (基準年度), 目標値 (目標年度), 実施後の値 (確認年度), 達成度, モニタリング方法, 効果発現要因(総合所見), 今後の対応, 備考(注8).

3) その他目標(2)に掲げたもの以外の目標(注7)
Table with columns: 指標, 従前値 (基準年度), 目標値 (目標年度), 実施後の値 (確認年度), 達成度, モニタリング方法, 効果発現要因(総合所見), 今後の対応, 備考(注8).

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱別表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」...
(注2)「事業名」は定住緊急支援事業計画に記載された事業名を記載する。
(注3)「全体事業費」は、「全体事業期間」を通じての全ての事業費と交付対象事業費をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。
(注4)「全体事業期間」は、事業着手年度から全ての事業内容が完了する年度までを記載する。
(注5)「年度事業費」は、事業着手から事業完了年度までの各年度の交付対象事業費と全ての事業費の実績額をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。
(注6)「評価実施時期」は、定住緊急支援事業計画に基づく事業等が完了した日の属する年度の翌年度の12月末日までの実施した時期を記載する。
(注7)2)には定住緊急支援計画に記載した内容を、3)には定住緊急支援計画に全くと記載していないもの、今回の整備により期待される効果があれば記載する。
なお、A-1-B-1-2-C-1事業については、子どもたちが十分に運動する機会の確保の観点、C-2-C-3については子育て世帯の定住に資する観点から、維持管理や運営の観点、ソフト事業との相乗効果などの面も含め目標を記載する。
(注8)「備考」の欄には、当該目標の評価対象となる事業番号を記載する。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

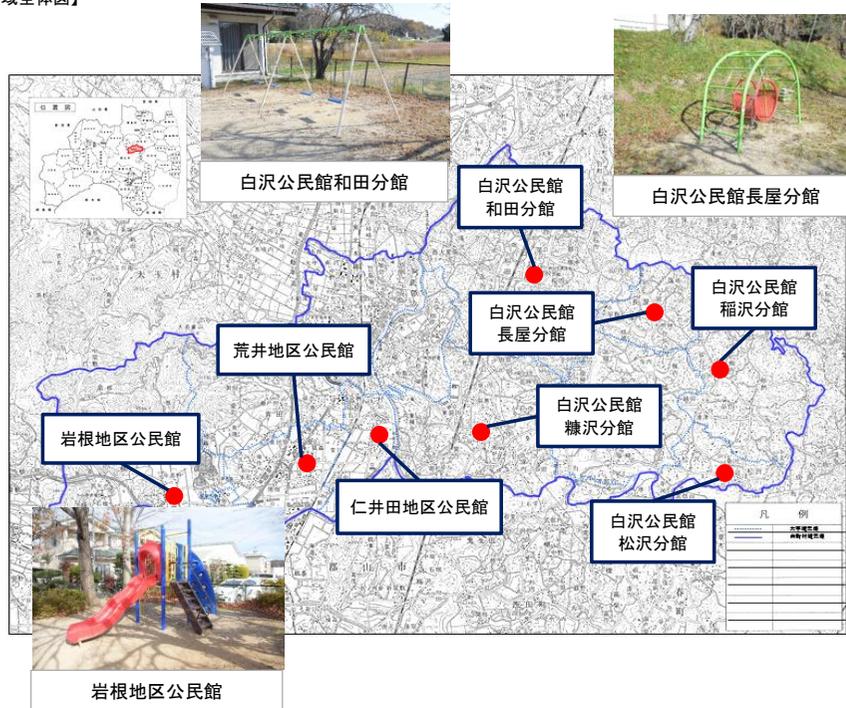
県名	福島県	交付期間	平成25年度	交付対象事業費	37,882千円
市町村名	本宮市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

・利用者を限定しない地域に開放されている地区公民館・分館の遊具の更新を実施することにより、子育て世帯が安心して親子で外遊びをする機会の増加を図り、子どもたちの体力向上及び肥満傾向児童の割合を減少させることを目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

子育て世帯が安心して親子で外遊びをする機会の増加を図り、子どもたちの体力を向上させるため、利用者を限定しない地域に開放されている地区公民館・分館の遊具を更新する。

<整備内容>

- 荒井地区公民館(荒井字茶園5番地) 滑り台、雲梯、ブランコ、鉄棒、マンホールトンネル
- 仁井田地区公民館(仁井田字寺下15番地) 滑り台、ブランコ、シーソー、タイヤ
- 岩根地区公民館(岩根字上土淵6番地) 複合滑り台、砂場
- 白沢公民館和田分館(和田字久保171番地) 鉄棒、ジャングルジム、滑り台、シーソー、ブランコ
- 白沢公民館糠沢分館(糠沢字原241番地) 鉄棒、滑り台、ブランコ、ロッキンパビー
- 白沢公民館長屋分館(長屋字小山34番地) 太鼓梯子、鉄棒、ブランコ、滑り台、ロッキンパビー
- 白沢公民館稲沢分館(稲沢字見切田53番地) 鉄棒、土管トンネル、ジャングルジム、複合遊具
- 白沢公民館松沢分館(松沢字池平36番地) 雲梯、鉄棒、滑り台、ブランコ

【事業着手】平成25年12月12日 【事業完了】平成26年3月31日

(2) 事業の実施状況

市広報誌等で遊具更新したことを周知し、子どもたちの外遊びを促している。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

市内避難者数は平成24年3月31日現在において、避難世帯数58世帯、避難者数156人(全国避難者情報システム)が最大となっていたが、平成29年8月15日時点では、避難世帯数9世帯、避難者数21人となっており、減少傾向となっている。

○肥満傾向児割合

・市内小学生…平成25年度:12.1% 平成26年度:12.1% 平成27年度:13.3% 平成28年度:12.9% 平成29年度:10.5%
→平成25年度比1.6ポイント減少しており、肥満傾向児童の割合に改善傾向が見られる。

○新体力テストのA・B判定の割合

・市内小学生…平成25年度:33.6% 平成26年度:35.0% 平成27年度:33.6% 平成28年度:40.9% 平成29年度:38.2%
→平成25年度比4.6ポイント上昇しており、体力の改善が見られる。

(4) その他

- 平成29年9月22日(金)に開催された本宮市教育委員会協議会にて、教育委員からの意見聴取を行った。主な意見は以下のとおり。
- 体力テストの結果が向上しているが、中には肥満傾向児童の割合が増加している学校もあり、肥満傾向児童の検証が必要である。
- 遊具が更新されたことにより安心して利用できるようになった。
- 公園等で遊んでいる子どもたちの笑顔が見れるようになったことは非常に良い。
- 運動する子どもとしない子どもの格差が広がっているようにも感じるため、全員が運動できるような体制を今後検討する必要がある。

事業計画推進による効果・変化(注2)

・遊具の更新や子どもたちが運動できる施設が整備されたことにより、放射線への不安がある程度解消されるなど、子どもたちが屋外での活動する環境が整えられてことにより、子どもたちの体力・運動能力や肥満傾向に改善が見られている。新体力テストの総合評価A・B判定の割合は4.6ポイント増加し、38.2%(平成29年度)、肥満傾向児童の割合は、1.6ポイント改善し、10.5%(平成29年度)となった。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

・市広報誌およびホームページでさらに周知を行い、利用促進を図っていく。市広報誌及びホームページでさらにPRし、利用促進を図る。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25～26年度	交付対象事業費	120,609千円
市町村名	本宮市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-2

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

・市内のみずいろ公園の遊具更新を実施し、子育て世帯が安心して親子で外遊びをする機会の増加を図り、子どもたちの体力向上及び肥満傾向児童の割合を減少させることを目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

子育て世帯が安心して親子で外遊びをする機会の増加を図り、子どもたちの体力を向上させるため、利用者を限定せず地域に開放されており、また子どもたちが積極的に遊びたいような複合遊具等を有するみずいろ公園の遊具を更新する。
みずいろ公園は、本市の中心市街地にあり、交通アクセスや駐車場の配置などの利便性を有する本市を代表する公園であり、みずいろ公園の遊具の更新を行うことで、より効果的に多くの子どもたちに、安心して屋外で遊ぶことができる環境が整備できる。

<整備内容>

・みずいろ公園(本宮字馬場地内) 大型複合遊具、スカイロープ、スプリング遊具

【事業着手】平成26年3月26日 【事業完了】平成27年3月6日

(2) 事業の実施状況

平成27年3月25日に幼稚園児等を招待し、遊具更新リニューアルオープンセレモニーを行った。

遊具を更新したことにより、市内外から多くの親子連れが利用している。

入園料は無料、休園日はなく、一般開放されている。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

市内避難者数は平成24年3月31日現在において、避難世帯数58世帯、避難者数156人(全国避難者情報システム)が最大となっていたが、平成29年8月15日時点では、避難世帯数9世帯、避難者数21人となっており、減少傾向となっている。

○肥満傾向児割合

・市内小学生…平成25年度:12.1% 平成26年度:12.1% 平成27年度:13.3% 平成28年度:12.9% 平成29年度:10.5%

→平成25年度比1.6ポイント減少しており、肥満傾向児童の割合に改善傾向が見られる。

○新体力テストのA・B判定の割合

・市内小学生…平成25年度:33.6% 平成26年度:35.0% 平成27年度:33.6% 平成28年度:40.9% 平成29年度:38.2%

→平成25年度比4.6ポイント上昇しており、体力の改善が見られる。

(4) その他

市内3エリアを結んでできるトライアングルを「元気もとみやトライアングル」と呼び、子どもたちの遊び場等を示したマップを作成し、施設の利用促進を図っている。

平成29年9月22日(金)に開催された本宮市教育委員会協議会にて、教育委員からの意見聴取を行った。主な意見は以下のとおり。

・体力テストの結果が向上しているが、中には肥満傾向児童の割合が増加している学校もあり、肥満傾向児童の検証が必要である。

・遊具が更新されたことにより安心して利用できるようになった。

・公園等で遊んでいる子どもたちの笑顔が見えるようになったことは非常に良い。

・運動する子どもとしない子どもの格差が広がっているようにも感じるため、全員が運動できるような体制を今後検討する必要がある。

・みずいろ公園は市内外を問わず、非常に多くの子どもたちに利用されており、体力テストや肥満傾向児の改善につながっているのではないかと。

事業計画推進による効果・変化(注2)

・遊具の更新や子どもたちが運動できる施設が整備されたことにより、放射線への不安がある程度解消されるなど、子どもたちが屋外での活動する環境が整えられてことにより、子どもたちの体力・運動能力や肥満傾向に改善が見られている。新体力テストの総合評価A・B判定の割合は4.6ポイント増加し、38.2%(平成29年度)、肥満傾向児童の割合は、1.6ポイント改善し、10.5%(平成29年度)となった。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

・市広報誌およびホームページでさらに周知を行い、利用促進を図っていく。
・スマイルキッズパーク(屋内運動施設)、スマイルキッズパーク「記念樹の社」屋外運動施設、みずいろ公園、本宮市屋内運動施設等、市内3エリアを結んで作られるトライアングルを「元気もとみやトライアングル」と呼び、子どもたちが遊べる場所や健康づくりの場所を示したマップを作成した。子育て世帯などに配布することで施設の利用促進を図り、肥満児の減少や体力向上に取り組んでいく。

(注1) 様式1の(2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の(2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成26年度	交付対象事業費	38,371千円
市町村名	本宮市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-3

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

・子育て世帯が安心して外遊び及びスポーツをする機会の増加を図り、子どもたちの体力向上及び肥満傾向児童の割合を減少させることを目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

幼稚園・小学校等の文教施設は、日中は在校児童が、放課後・休日も在校児童を含む地域の子どもたちが活用する等、子育て世代の多くの人々が集う地域の拠点施設であり、遊具を更新することで、体力向上を図るとともに、安心して子育てを行う環境対策の一つとして、市民の定住意識向上や避難者帰還の促進を図る。

<整備内容>

- ・五百川小学校(荒井字西畑地内) 滑り台、タワーネットシングル、ジャングルジム、4連ブランコ、けんすいシーソー、4人シーソー、のぼり棒、雲梯1基、高低鉄棒1基、10連低鉄棒1基
- ・岩根幼稚園(岩根字下年神地内) 4連ブランコ1基、すべり台1基、低鉄棒1基
- ・岩根小学校(岩根字下年神地内) コンビネーション、ジャングルジム、雲梯、シーソー、高低鉄棒、4連ブランコ、10連低鉄棒、のぼり棒、すべり台1基、ロッククライマー1基

※兼沢幼稚園と兼沢小学校は併設

【事業着手】平成26年6月20日 【事業完了】平成26年10月17日

(2) 事業の実施状況

学校の休み時間や昼休み、放課後等自由に利用していただいている。また、休日も一般開放している。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

市内避難者数は平成24年3月31日現在において、避難世帯数58世帯、避難者数156人(全国避難者情報システム)が最大となっていたが、平成29年8月15日時点では、避難世帯数9世帯、避難者数21人となっており、減少傾向となっている。

○肥満傾向児割合

・市内小学生…平成25年度:12.1% 平成26年度:12.1% 平成27年度:13.3% 平成28年度:12.9% 平成29年度:10.5%
→平成25年度比1.6ポイント減少しており、肥満傾向児童の割合に改善傾向が見られる。

○新体力テストのA・B判定の割合

・市内小学生…平成25年度:33.6% 平成26年度:35.0% 平成27年度:33.6% 平成28年度:40.9% 平成29年度:38.2%
→平成25年度比4.6ポイント上昇しており、体力の改善が見られる。

(4) その他

- ・平成29年9月22日(金)に開催された本宮市教育委員会協議会にて、教育委員からの意見聴取を行った。主な意見は以下のとおり。
- ・体力テストの結果が向上しているが、中には肥満傾向児童の割合が増加している学校もあり、肥満傾向児童の検証が必要である。
- ・遊具が更新されたことにより安心して利用できるようになった。
- ・公園等で遊んでいる子どもたちの笑顔が見えるようになったことは非常に良い。
- ・運動する子どもとしない子どもの格差が広がっているようにも感じるため、全員が運動できるような体制を今後検討する必要がある。

事業計画推進による効果・変化(注2)

・遊具の更新や子どもたちが運動できる施設が整備されたことにより、放射線への不安がある程度解消されるなど、子どもたちが屋外での活動する環境が整えられてことにより、子どもたちの体力・運動能力や肥満傾向に改善が見られている。新体力テストの総合評価A・B判定の割合は4.6ポイント増加し、38.2%(平成29年度)、肥満傾向児童の割合は、1.6ポイント改善し、10.5%(平成29年度)となった。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

・市広報誌およびホームページでさらに周知を行い、利用促進を図っていく。市広報誌及びホームページでさらにPRし、利用促進を図る。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成26年度	交付対象事業費	14,110千円
市町村名	本宮市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-4

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

・子育て世帯が安心して外遊び及びスポーツをする機会の増加を図り、子どもたちの体力向上及び肥満傾向児童の割合を減少させることを目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

子育て世帯が安心して親子で外遊びをする機会の増加を図り、子どもたちの体力を向上させるため、糠沢地区において、フォーシーズンしらさわ秋公園の遊具を更新する。
フォーシーズンしらさわ秋公園については、集会所に隣接し、団地内の親子が集う憩いの場となっており、幼児から小学生まで幅広く利用されている公園である。また、糠沢地区については、公園が少ないため、平日下校時や休日には団地外の子どもたちも遊びに来て体を動かしており、遊具の更新を行うことで、より効果的に多くの子どもたちに、安心して屋外で遊ぶことができる環境が整備できる。

<整備内容>

・フォーシーズンしらさわ秋公園(糠沢字光が丘地内) 複合遊具、すべり台、スプリング遊具

【事業着手】平成26年6月6日 【事業完了】平成26年9月3日

(2) 事業の実施状況

遊具を更新したことにより、住宅団地内をはじめ、多くの子どもたちが利用している。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

市内避難者数は平成24年3月31日現在において、避難世帯数58世帯、避難者数156人(全国避難者情報システム)が最大となっていたが、平成29年8月15日時点では、避難世帯数9世帯、避難者数21人となっており、減少傾向となっている。

○肥満傾向児割合

・市内小学生…平成25年度:12.1% 平成26年度:12.1% 平成27年度:13.3% 平成28年度:12.9% 平成29年度:10.5%
→平成25年度比1.6ポイント減少しており、肥満傾向児童の割合に改善傾向が見られる。

○新体力テストのA・B判定の割合

・市内小学生…平成25年度:33.6% 平成26年度:35.0% 平成27年度:33.6% 平成28年度:40.9% 平成29年度:38.2%
→平成25年度比4.6ポイント上昇しており、体力の改善が見られる。

(4) その他

平成29年9月22日(金)に開催された本宮市教育委員会協議会において、教育委員からの意見聴取を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・体力テストの結果が向上しているが、中には肥満傾向児童の割合が増加している学校もあり、肥満傾向児童の検証が必要である。
- ・遊具が更新されたことにより安心して利用できるようになった。
- ・公園等で遊んでいる子どもたちの笑顔が見れるようになったことは非常に良い。
- ・運動する子どもとしない子どもの格差が広がっているようにも感じるため、全員が運動できるような体制を今後検討する必要がある。

事業計画推進による効果・変化(注2)

・遊具の更新や子どもたちが運動できる施設が整備されたことにより、放射線への不安がある程度解消されるなど、子どもたちが屋外での活動する環境が整えられてことにより、子どもたちの体力・運動能力や肥満傾向に改善が見られている。新体力テストの総合評価A・B判定の割合は4.6ポイント増加し、38.2%(平成29年度)、肥満傾向児童の割合は、1.6ポイント改善し、10.5%(平成29年度)となった。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

・市広報誌およびホームページでさらに周知を行い、利用促進を図っていく。市広報誌及びホームページでさらにPRし、利用促進を図る。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

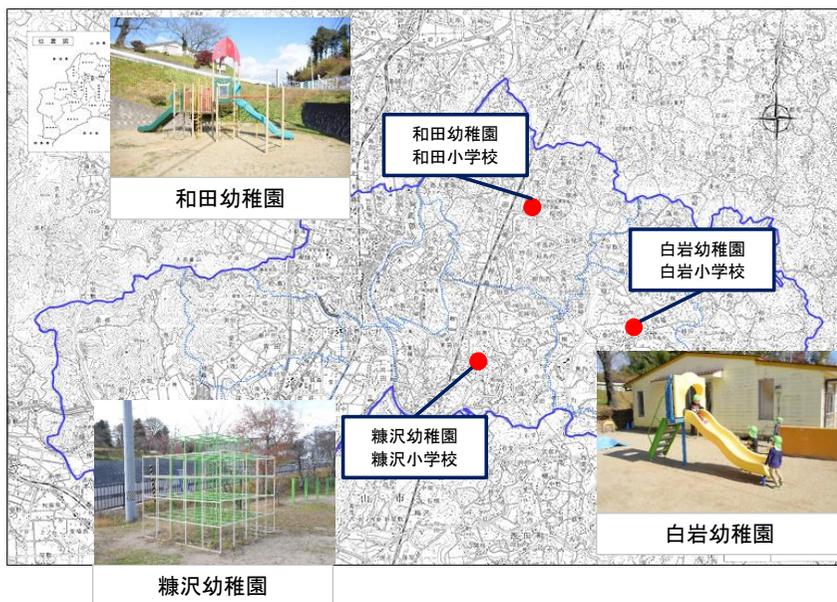
県名	福島県	交付期間	平成26年度	交付対象事業費	51,898千円
市町村名	本宮市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-5

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

・幼稚園・小学校等の文教施設の遊具を更新することで、子育て世帯が安心して外遊び及びスポーツをする機会の増加を図り、子どもたちの体力向上及び肥満傾向児童の割合を減少させることを目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

幼稚園・小学校等の文教施設は、日中は在校児童が、放課後・休日も在校児童を含む地域の子どもたちが活用する等、子育て世代の多くの人々が集う地域の拠点施設であり、遊具を更新することで、体力向上を図るとともに、安心して子育てを行う環境対策の一つとして、市民の定住意識向上や避難者帰還の促進を図る。

<整備内容>

- ・和田幼稚園(和田字学校前地内) 山型雲梯、すべり台、4連ブランコ、複合遊具、ジャングルジム、3連鉄棒、2方向滑り台
- ・和田小学校(和田字学校前地内) 6連低鉄棒、高低鉄棒、ブランコ、山型雲梯、のぼり棒、タワーネットシングル、ジャングルジム
- ・糠沢幼稚園(糠沢字原地内) 4連ブランコ、すべり台、3連鉄棒、傘型のぼり棒
- ・糠沢小学校(糠沢字原地内) 4連ブランコ、すべり台、のぼり棒、山型雲梯、6連鉄棒、ジャングルジム、高低自在鉄棒
- ・白岩幼稚園(白岩字馬場地内) 水型雲梯、傘型のぼり棒、5連鉄棒、ジャングルジム、4連ブランコ、砂場枠、すべり台、小枝トンネル
- ・白岩小学校(白岩字馬場地内) 山型雲梯1基、のぼり棒1基、4連ブランコ1基、ジャングルジム1基、6連鉄棒1基、中鉄棒1基

【事業着手】平成26年11月21日 【事業完了】平成27年3月20日

(2) 事業の実施状況

学校の休み時間や昼休み、放課後等自由に利用していただいている。また、休日も一般開放している。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

市内避難者数は平成24年3月31日現在において、避難世帯数58世帯、避難者数156人(全国避難者情報システム)が最大となっていたが、平成29年8月15日時点では、避難世帯数9世帯、避難者数21人となり、減少傾向となっている。

○肥満傾向児割合

市内小学生…平成25年度:12.1% 平成26年度:12.1% 平成27年度:13.3% 平成28年度:12.9% 平成29年度:10.5%
→平成25年度比1.6ポイント減少しており、肥満傾向児童の割合に改善傾向が見られる。

○新体力テストのA・B判定の割合

市内小学生…平成25年度:33.6% 平成26年度:35.0% 平成27年度:33.6% 平成28年度:40.9% 平成29年度:38.2%
→平成25年度比4.6ポイント上昇しており、体力の改善が見られる。

(4) その他

- ・平成29年9月22日(金)に開催された本宮市教育委員会協議会にて、教育委員からの意見聴取を行った。主な意見は以下のとおり。
- ・体力テストの結果が向上しているが、中には肥満傾向児童の割合が増加している学校もあり、肥満傾向児童の検証が必要である。
- ・遊具が更新されたことにより安心して利用できるようになった。
- ・運動する子どもとしない子どもの格差が広がっているようにも感じるため、全員が運動できるような体制を今後検討する必要がある。

事業計画推進による効果・変化(注2)

・遊具の更新や子どもたちが運動できる施設が整備されたことにより、放射線への不安がある程度解消されるなど、子どもたちが屋外での活動する環境が整えられてことにより、子どもたちの体力・運動能力や肥満傾向に改善が見られている。新体力テストの総合評価A・B判定の割合は4.6ポイント増加し、38.2%(平成29年度)、肥満傾向児童の割合は、1.6ポイント改善し、10.5%(平成29年度)となった。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

・市広報誌およびホームページでさらに周知を行い、利用促進を図っていく。市広報誌及びホームページでさらにPRし、利用促進を図る。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成26年度	交付対象事業費	19,483千円
市町村名	本宮市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-6

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

・小学校等の文教施設の遊具を更新することで、子育て世帯が安心して外遊び及びスポーツをする機会の増加を図り、子どもたちの体力向上及び肥満傾向児童の割合を減少させることを目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】 (1) 事業概要

幼稚園・小学校等の文教施設は、日中は在校児童が、放課後・休日にも在校児童を含む地域の子どもたちが活用する等、子育て世代の多くの人々が集う地域の拠点施設であり、遊具を更新することで、体力向上を図るとともに、安心して子育てを行う環境対策の一つとして、市民の定住意識向上や避難者帰還の促進を図る。

<整備内容>

・本宮小学校(本宮字館ノ越地内) ジャングルジム、低鉄棒6連、中鉄棒6連、すべり台、ブランコ、のぼり棒、ロッククライマー、山型雲梯、10連高低自在鉄棒1基

・本宮まゆみ小学校(本宮字舞台地内) ブランコ、すべり台、ジャングルジム、14連鉄棒、山型雲梯、のぼり棒

【事業着手】:平成27年2月17日 【事業完了】:平成27年3月31日

(2) 事業の実施状況

教員による遊具利用の説明会を全校生徒に対して実施し、安全に楽しく利用することを指導した。
学校の休み時間や昼休み、放課後等自由に利用していただいている。また、休日も一般開放している。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

市内避難者数は平成24年3月31日現在において、避難世帯数58世帯、避難者数156人(全国避難者情報システム)が最大となっていたが、平成29年8月15日時点では、避難世帯数9世帯、避難者数21人となっており、減少傾向となっている。

○肥満傾向児割合

・市内小学生…平成25年度:12.1% 平成26年度:12.1% 平成27年度:13.3% 平成28年度:12.9% 平成29年度:10.5%
→平成25年度比1.6ポイント減少しており、肥満傾向児童の割合に改善傾向が見られる。

○新体力テストのA・B判定の割合

・市内小学生…平成25年度:33.6% 平成26年度:35.0% 平成27年度:33.6% 平成28年度:40.9% 平成29年度:38.2%
→平成25年度比4.6ポイント上昇しており、体力の改善が見られる。

(4) その他

平成29年9月22日(金)に開催された本宮市教育委員会協議会にて、教育委員からの意見聴取を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・体力テストの結果が向上しているが、中には肥満傾向児童の割合が増加している学校もあり、肥満傾向児童の検証が必要である。
- ・遊具が更新されたことにより安心して利用できるようになった。
- ・運動する子どもとしない子どもの格差が広がっているようにも感じるため、全員が運動できるような体制を今後検討する必要がある。

事業計画推進による効果・変化(注2)

・遊具の更新や子どもたちが運動できる施設が整備されたことにより、放射線への不安がある程度解消されるなど、子どもたちが屋外での活動する環境が整えられてことにより、子どもたちの体力・運動能力や肥満傾向に改善が見られている。新体力テストの総合評価A・B判定の割合は4.6ポイント増加し、38.2%(平成29年度)、肥満傾向児童の割合は、1.6ポイント改善し、10.5%(平成29年度)となった。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

・市広報誌およびホームページでさらに周知を行い、利用促進を図っていく。市広報誌及びホームページでさらにPRし、利用促進を図る。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成27年度	交付対象事業費	40,939千円
市町村名	本宮市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-7

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

・子育て世帯が安心して外遊び及びスポーツをする機会の増加を図り、子どもたちの体力向上及び肥満傾向児童の割合を減少させることを目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

市内3箇所の都市公園の遊具を更新することで、子どもたちの屋外での遊びの機会を確保し、安心して子育てを行う環境対策を講ずることで、市民の定住意識向上や避難者帰還の促進を図る。

<整備内容>

- 兼谷公園(本宮市兼谷地内) 複合遊具、太鼓はしご、シーソー、スプリング遊具、砂場
- 明戸石公園(高木字井戸上地内) 2連ブランコ、クライムステーション、砂場
- みずきが丘第2公園(岩根字みずきが丘地内) 2連ブランコ、複合滑り台、3連低鉄棒、シーソー、砂場

【事業着手】:平成28年1月21日 【事業完了】:平成28年3月29日

(2) 事業の実施状況

市ホームページで公園遊具の更新が完了したことを周知し、子育て世帯の利用を促している。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

市内避難者数は平成24年3月31日現在において、避難世帯数58世帯、避難者数156人(全国避難者情報システム)が最大となっていたが、平成29年8月15日時点では、避難世帯数9世帯、避難者数21人となっており、減少傾向となっている。

○肥満傾向児割合

・市内小学生…平成25年度:12.1% 平成26年度:12.1% 平成27年度:13.3% 平成28年度:12.9% 平成29年度:10.5%
→平成25年度比1.6ポイント減少しており、肥満傾向児童の割合に改善傾向が見られる。

○新体力テストのA・B判定の割合

・市内小学生…平成25年度:33.6% 平成26年度:35.0% 平成27年度:33.6% 平成28年度:40.9% 平成29年度:38.2%
→平成25年度比4.6ポイント上昇しており、体力の改善が見られる。

(4) その他

平成29年9月22日(金)に開催された本宮市教育委員会協議会にて、教育委員からの意見聴取を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・体力テストの結果が向上しているが、中には肥満傾向児童の割合が増加している学校もあり、肥満傾向児童の検証が必要である。
- ・遊具が更新されたことにより安心して利用できるようになった。
- ・公園等で遊んでいる子どもたちの笑顔が見えるようになったことは非常に良い。
- ・運動する子どもとしない子どもの格差が広がっているようにも感じるため、全員が運動できるような体制を今後検討する必要がある。

事業計画推進による効果・変化(注2)

・遊具の更新や子どもたちが運動できる施設が整備されたことにより、放射線への不安がある程度解消されるなど、子どもたちが屋外での活動する環境が整えられてことにより、子どもたちの体力・運動能力や肥満傾向に改善が見られている。新体力テストの総合評価A・B判定の割合は4.6ポイント増加し、38.2%(平成29年度)、肥満傾向児童の割合は、1.6ポイント改善し、10.5%(平成29年度)となった。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

・市広報誌およびホームページでさらに周知を行い、利用促進を図っていく。市広報誌及びホームページでさらにPRし、利用促進を図る。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25年度	交付対象事業費	39,860千円
市町村名	本宮市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	B-1-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

・安心・安全な運動施設として屋内運動施設をし整備し、将来を担う子どもたちの運動及び自然の中での遊びの楽しさを実感できる機会を増加させ、子どもたちの体力向上及び肥満傾向児童の割合を減少させることを目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

原発事故の影響による子どもたちの運動不足の解消と心身の健康増進を図るため、平成24年7月21日に「白沢保健センター」の一部を改装し、屋内運動施設「スマイルキッズパーク」としてオープンさせ、連日多くの方々にご利用いただいているが、限られたスペースのため、子どもたちがのびのびと遊べる空間、遊具がまだまだ不足している状況にあることから、「スマイルキッズパーク」を増築し、運動施設の充実を図る。

増築面積97.75㎡ ジュニアアスリートエリア

【事業着手】平成25年8月1日

【事業完了】平成25年10月29日

(2) 事業の実施状況

平成25年11月2日に園児や小学生を招待し、屋内運動施設「アスリートエリア」のリニューアル・オープンセレモニーが開催した。市ホームページや広報誌で周知し、多くの子もたちにご利用いただいている。

事業実施前の平成24年度の年間利用者数(小学生以下)は16,071人だったのに対し、事業実施後の平成28年度の年間利用者数は44,774人と約2.8倍になっており、市内外を問わず多くの子もたちに利用されている。(平成29年10月末時点の利用者数は30,852人)

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

市内避難者数は平成24年3月31日現在において、避難世帯数58世帯、避難者数156人(全国避難者情報システム)が最大となっていたが、平成29年8月15日時点では、避難世帯数9世帯、避難者数21人となっており、減少傾向となっている。

○肥満傾向児割合

・市内小学生…平成25年度:12.1% 平成26年度:12.1% 平成27年度:13.3% 平成28年度:12.9% 平成29年度:10.5%
→平成25年度比1.6ポイント減少しており、肥満傾向児童の割合に改善傾向が見られる。

○新体力テストのA・B判定の割合

・市内小学生…平成25年度:33.6% 平成26年度:35.0% 平成27年度:33.6% 平成28年度:40.9% 平成29年度:38.2%
→平成25年度比4.6ポイント上昇しており、体力の改善が見られる。

(4) その他

平成29年9月22日(金)に開催された本宮市教育委員会協議会にて、教育委員からの意見聴取を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・スマイルキッズパークは、子どもたちが運動する環境が整っており、非常に多くの子もたちが利用している。
- ・体力テストの結果が向上しているが、中には肥満傾向児童の割合が増加している学校もあり、肥満傾向児童の検証が必要である。
- ・運動する子どもとしない子どもの格差が広がっているようにも感じるため、全員が運動できるような体制を今後検討する必要がある。

事業計画推進による効果・変化(注2)

・遊具の更新や子どもたちが運動できる施設が整備されたことにより、放射線への不安がある程度解消されるなど、子どもたちが屋外での活動する環境が整えられてことにより、子どもたちの体力・運動能力や肥満傾向に改善が見られている。新体力テストの総合評価A・B判定の割合は4.6ポイント増加し、38.2%(平成29年度)、肥満傾向児童の割合は、1.6ポイント改善し、10.5%(平成29年度)となった。
・平成24年度と比較し、平成29年度の1ヶ月あたりの利用者数(10月末現在)は約2.5倍となっていることから、子どもの運動機会の確保に大きく寄与していると考えられる。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

・スマイルキッズパーク「記念樹の杜」屋外運動施設との相乗効果を図り、屋内外の多様な運動を体験できるよう遊びのスペシャリスト(プレーリーダー)によるさまざまな遊びを子どもたちに伝え、運動する楽しさを感じてもらおう。
・スマイルキッズパーク(屋内運動施設)、スマイルキッズパーク「記念樹の杜」屋外運動施設、みずいろ公園、本宮市屋内運動施設等、市内3エリアを結んで作られるトライアングルを「元気もとみやトライアングル」と呼び、子どもたちが遊べる場所や健康づくりの場所を示したマップを作成した。子育て世帯などに配布することで施設の利用促進を図り、肥満児の減少や体力向上に取り組んでいく。

(注1) 様式1の(2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の(2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25～26年度	交付対象事業費	333,302千円
市町村名	本宮市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	B-1-2、◆B-1-2-1

1)事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

・本宮まゆみ小学区に屋外プールを整備することにより、子育て世帯が安心して親子で外遊びをする機会の増加とを図り、子どもたちの体力向上及び肥満傾向児童の割合を減少させることを目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1)事業概要

未就学児を含む児童が居住地域に関わらず、太陽の下で元気に泳ぐ機会を設け、体力増進や子ども同士の交流を図りやすくする環境整備をする。

<整備内容>

屋外プール(25m×6コース、幼児・低学年プール)、プール上屋(半面)、シャワー室、更衣室等

【事業着手】平成26年3月19日 【事業完了】平成27年3月25日

【関連効果促進事業 ◆B-1-2-1 本宮市子ども屋外プール効果促進事業】 交付対象事業費:760千円

基幹事業で整備した本宮市子ども屋外プールにおいて、水泳指導員(オリンピックメダリスト等)による水泳教室を、プール利用期間中に2回実施し、子どもにスポーツに対する夢と希望を与えとともに、未就学児を含む子どもたちに対し泳ぐことへのきっかけをつくり、水泳への興味・関心を引き出すことで、子ども屋外プールの更なる利用を図ると同時に、運動不足の解消、体力の向上及び子ども同士の更なる交流を図った。

(2)事業の実施状況

開館期間:7月下旬～9月上旬

【利用時間】

1回目:10:00～11:40、2回目:13:00～14:40、3回目:15:00～16:40

一般利用のほか、本宮市小学生水泳大会等も開催し、施設の利用促進を図っている。

(3)人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

市内避難者数は平成24年3月31日現在において、避難世帯数58世帯、避難者数156人(全国避難者情報システム)が最大となっていたが、平成29年8月15日時点では、避難世帯数9世帯、避難者数21人となっており、減少傾向となっている。

○肥満傾向児割合

・市内小学生…平成25年度:12.1% 平成26年度:12.1% 平成27年度:13.3% 平成28年度:12.9% 平成29年度:10.5%
→平成25年度比1.6ポイント減少しており、肥満傾向児童の割合に改善傾向が見られる。

○新体力テストのA・B判定の割合

・市内小学生…平成25年度:33.6% 平成26年度:35.0% 平成27年度:33.6% 平成28年度:40.9% 平成29年度:38.2%
→平成25年度比4.6ポイント上昇しており、体力の改善が見られる。

(4)その他

平成29年9月22日(金)に開催された本宮市教育委員会協議会にて、教育委員からの意見聴取を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・体力テストの結果が向上しているが、中には肥満傾向児童の割合が増加している学校もあり、肥満傾向児童の検証が必要である。
- ・運動する子どもとしない子どもの格差が広がっているようにも感じるため、全員が運動できるような体制を今後検討する必要がある。

事業計画推進による効果・変化(注2)

・遊具の更新や子どもたちが運動できる施設が整備されたことにより、放射線への不安がある程度解消されるなど、子どもたちが屋外での活動する環境が整えられてことにより、子どもたちの体力・運動能力や肥満傾向に改善が見られている。新体力テストの総合評価A・B判定の割合は4.6ポイント増加し、38.2%(平成29年度)、肥満傾向児童の割合は、1.6ポイント改善し、10.5%(平成29年度)となった。
子ども屋外プールのオープニングセレモニーに合わせ、効果促進事業のオリンピックメダリストによる水泳教室を開催し、泳ぐことへの興味関心を持たせることができた。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- ・子ども屋外プールの子ども屋外プールが完成したことをさらに周知し、幼児及び小学生の利用を促進する。
- ・水泳大会等での記録を蓄積し、より効果的なプールの利用を図る。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

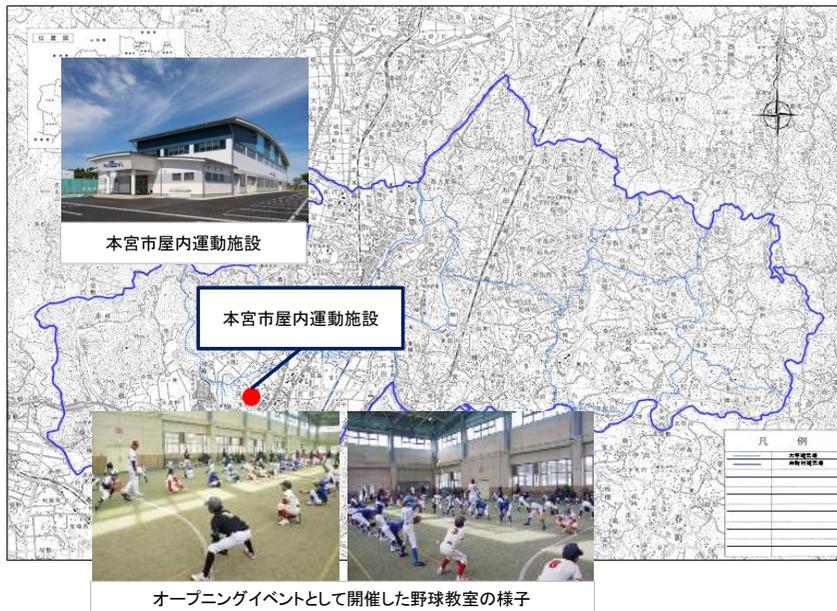
県名	福島県	交付期間	平成26～28年度	交付対象事業費	655,030千円
市町村名	本宮市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	B-1-3、◆B-1-3-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

・原子力発電所事故によって放射能に対する不安がある中で、子どもや障がいのある子どもたちが運動できる多様なニーズに対応した施設として整備することで運動機会を確保し、子どもたちの体力向上及び肥満傾向児童の割合を減少させることを目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

小中学生の運動不足の解消と健康増進を図るため、天候によらず年間を通して走ったり、野球の練習をしたりできる多目的の屋内運動施設を整備する。
また、これまで健常の子どもを中心に整備を進めてきたが、市として障がいの体力向上も合わせて取り組んでいる中において、障がいの者が運動できるような施設がない状況にある。このことから、障がいの子どもたちも運動できる多様なニーズに対応した施設とする。

<整備内容>

神座グラウンド駐車場に、人工芝敷の屋内運動施設を整備する。

①整備場所: 本宮市関下字東原地内(神座運動場駐車場)

②延床面積: 1,382.76 m²

③設備: 多目的広場(1,219.50 m²)、男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレ、体育倉庫ほか

【事業着手】平成26年11月1日 【事業完了】平成28年9月30日

【関連効果促進事業 ◆B-1-3-1 本宮市屋内運動施設整備事業(外構工事)】 交付対象事業費: 107,035千円

屋内運動施設の利用促進を図り、子どもの運動機会を確保するため、保護者等が送迎等に利用する駐車場を整備する。

【事業着手】平成26年11月1日 【事業完了】平成28年9月30日

(2) 事業の実施状況

開館日: 年中無休(年末年始は除く。)

開館時間: 午前8時30分から午後10時まで

平成28年10月30日に落成式を行い、市内のスポーツ少年団等の児童約180人を招待した。同日、楽天イーグルスベースボールスクールによる野球教室も行われ、児童達が元気よく体を動かしていた。

また、ホームページや市広報誌でも完成を周知し、子どもたちをはじめ多くの方々の利用を促している。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

市内避難者数は平成24年3月31日現在において、避難世帯数58世帯、避難者数156人(全国避難者情報システム)が最大となっていたが、平成29年8月15日時点では、避難世帯数9世帯、避難者数21人となっており、減少傾向となっている。

○肥満傾向児割合

・市内小学生…平成25年度: 12.1% 平成26年度: 12.1% 平成27年度: 13.3% 平成28年度: 12.9% 平成29年度: 10.5%
→平成25年度比1.6ポイント減少しており、肥満傾向児童の割合に改善傾向が見られる。

○新体力テストのA・B判定の割合

・市内小学生…平成25年度: 33.6% 平成26年度: 35.0% 平成27年度: 33.6% 平成28年度: 40.9% 平成29年度: 38.2%
→平成25年度比4.6ポイント上昇しており、体力の改善が見られる。

(4) その他

平成29年9月22日(金)に開催された本宮市教育委員会協議会にて、教育委員からの意見聴取を行った。主な意見は以下のとおり。

・体力テストの結果が向上しているが、中には肥満傾向児童の割合が増加している学校もあり、肥満傾向児童の検証が必要である。
・運動する子どもとしない子どもの格差が広がっているようにも感じているため、全員が運動できるような体制を今後検討する必要がある。

事業計画推進による効果・変化(注2)

・遊具の更新や子どもたちが運動できる施設が整備されたことにより、放射線への不安がある程度解消されるなど、子どもたちが屋外での活動する環境が整えられてことにより、子どもたちの体力・運動能力や肥満傾向に改善が見られている。新体力テストの総合評価A・B判定の割合は4.6ポイント増加し、38.2%(平成29年度)、肥満傾向児童の割合は、1.6ポイント改善し、10.5%(平成29年度)となった。
・平成28年10月30日に落成式と楽天イーグルスベースボールスクールにより野球教室が実施され、子どもたちが施設を利用した運動を体験することができた。平成29年度(8月時点)では、1ヶ月あたり658名(未成年者)の利用があり、多くの子どもたちに利用されている。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

・本宮市屋内運動施設は天候を気にせず運動でき、長方形という独特な形状をしていることから、野球の遠投や障がい者スポーツなどさまざまなスポーツに対応できることをPRし、施設の利用促進と子どもたちの運動不足解消につながるよう支援を続けていく。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

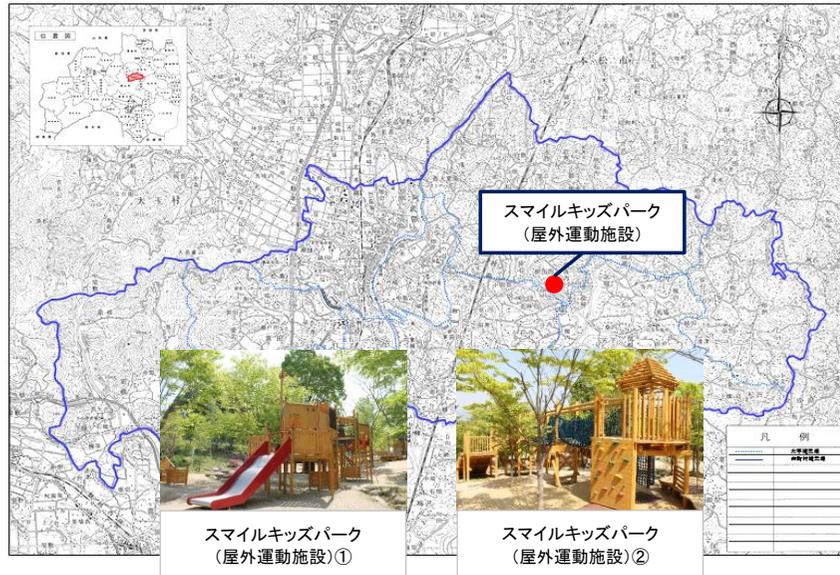
県名	福島県	交付期間	平成25～26年度	交付対象事業費	321,975千円
市町村名	本宮市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	C-1-1、◆C-1-1-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

〇しらさわグリーンパーク内の「記念樹の社」を屋外運動施設として整備し、将来を担う子どもたちの運動及び自然の中での遊びの楽しさを実感できる機会を増加させ、子どもたちの体力向上及び肥満傾向児童の割合を減少させることを目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

記念樹の社を屋外運動施設として整備し、市内の遊び場を充実させ、子どもたちやその親たちが安心して活動できる環境をつくる。
 <整備内容>
 ・遊具一式、休憩所4箇所(エントランス1棟、四阿3基)、水飲み場1箇所、トイレ1箇所、地価連絡通路1箇所
 【事業着手】平成26年3月19日 【事業完了】平成26年12月24日 【供用開始】平成26年12月25日

(2) 事業の実施状況

平成26年12月25日にオープニングセレモニーを実施した。
 【地下連絡通路・トイレの利用可能時間】
 (4/1～10/30)9:00～16:45 (11/1～3/31)10:00～16:00 (夏休み期間)9:00～17:00
 【利用人数】
 平成27年度 子ども:1,736人 大人:1,048人
 平成28年度 子ども:2,204人 大人:987人
 平成29年度 子ども:2,030人 大人:1,463人(平成29年8月末時点)
 ※団体利用の場合のみ人数を集計。

〔関連効果促進事業 ◆C-1-1-1 スマイルキッズパーク「記念樹の社」屋外運動施設プレイリーダー育成事業〕 交付対象事業費:5,614千円
 スマイルキッズパーク屋外運動施設は、プレイパークの考え方を取り入れ、子どもたちの自発的な遊びの創造の場を確保することも目的としている。遊びの指導者として、プレイリーダーを配置し、目的に沿った運営を行っている。さらに、屋外運動施設の利用を促進するため、体験学習(竹馬や竹とんぼ等外での遊びを促進する昔ながらのおもちゃの製作等)やイベント(遊具を使ったかけっこ競争、かくれんぼ、缶蹴り、宝探し等を使った遊び等)も開催し、運動機会を増加させるだけでなく、親子・世代間交流の場としても活用している。

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

市内避難者数は平成24年3月31日現在において、避難世帯数58世帯、避難者数156人(全国避難者情報システム)が最大となっていたが、平成29年8月15日時点では、避難世帯数9世帯、避難者数21人となっており、減少傾向となっている。

- 肥満傾向児割合
 - ・市内小学生…平成25年度:12.1% 平成26年度:12.1% 平成27年度:13.3% 平成28年度:12.9% 平成29年度:10.5%
 - 平成25年度比1.6ポイント減少しており、肥満傾向児童の割合に改善傾向が見られる。
- 新体力テストのA・B判定の割合
 - ・市内小学生…平成25年度:33.6% 平成26年度:35.0% 平成27年度:33.6% 平成28年度:40.9% 平成29年度:38.2%
 - 平成25年度比4.6ポイント上昇しており、体力の改善が見られる。

(4) その他

平成29年9月22日(金)に開催された本宮市教育委員会協議会にて、教育委員からの意見聴取を行った。主な意見は以下のとおり。
 ・体力テストの結果が向上しているが、中には肥満傾向児童の割合が増加している学校もあり、肥満傾向児童の検証が必要である。
 ・公園等で遊んでいる子どもたちの笑顔が見えるようになったことは非常に良い。
 ・運動する子どもとしない子どもの格差が広がっているようにも感じるため、全員が運動できるような体制を今後検討する必要がある。

事業計画推進による効果・変化(注2)

・遊具の更新や子どもたちが運動できる施設が整備されたことにより、放射線への不安がある程度解消されるなど、子どもたちが屋外での活動する環境が整えられてことにより、子どもたちの体力・運動能力や肥満傾向に改善が見られている。新体力テストの総合評価A・B判定の割合は4.6ポイント増加し、38.2%(平成29年度)、肥満傾向児童の割合は、1.6ポイント改善し、10.5%(平成29年度)となった。
 ・屋内運動施設の利用者数が平成24年度においては月平均1,339人だったものが、平成29年8月現在では、月平均4,656人となっており、利用者が増加している。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

・スマイルキッズパーク専用フェイスブックページを開設しており、今後も定期的にイベントを開催して施設の周知を図るとともに、子どもたちの屋外での運動機会を確保する。
 ・スマイルキッズパーク(屋内運動施設)、スマイルキッズパーク「記念樹の社」屋外運動施設、みずいろ公園、本宮市屋内運動施設等、市内3エリアを結んで作られるトライアングルを「元気もとみやトライアングル」と呼び、子どもたちが遊べる場所や健康づくりの場所を示したマップを作成した。子育て世帯などに配布し施設の利用促進を図り、肥満児の減少や体力向上に取り組んでいく。

(注1)様式1の(2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の(2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。